

# 「入野谷在来復活夢プロジェクト」活動日誌・経過報告

信州そば発祥の地・伊那そば振興会

会長 飯島 進

平成 9 年（1997）

会津に「高遠そば」があるのに何故高遠に「高遠そば」がないのか・・・？

そんな声を聞く中から、「究極の高遠そば研究会」が官民一体で開催されました。

平成 10 年（1998）4 月

地元で新たな名物を作ろうと考え、「高遠そば」の里帰りとして商品化、販売の趣旨に賛同いただいた飲食店や旅館の有志で「高遠そば」の幟旗を掲げ、「高遠そば」は、スタートしました。

## 在来種への興味

その当時から、「昔のそばは、美味かったな～！」という声を耳にすることがありました。

その話の中で、『高遠の「芝平地区」や長谷の「浦地区」では、葬式があるとまず、そば打ち役を決め、参列者にそばを振舞った。そのそばがあまりにも美味しく、両地区では葬儀があると、参列者は楽しみにしていた。』・・・そんな話も聞きました。

その美味いと言われる「昔のそば」に当時から興味を持っていました。

時は流れ

平成 24 年（2012）秋 地元在来種復活の夢

私達は、そばの権威者で、信州大学教授であった故氏原<sup>あきお</sup>暉男先生の奥蓼科にある研究室を訪れる機会がありました。

そこには、氏原先生が国内はもとより世界中から集めた、膨大な数の“そば”のサンプル、コレクションが展示されていました。

私達は、その中に「高遠在来」と書かれたものや「長谷在来」、「伊那在来」と書かれた子袋を発見しました。その子袋を分けていただけないか交渉しましたが、実現できませんでした。

しかし、地元在来種の存在を知った私達は「在来種の復活」への夢を熱く語り合いました。

平成 26 年（2014）＜一年目の取組＞

## 地元在来種の種を発見

仲間の一人（山根健司）が、県・野菜花卉試験場に在来種の種が保管されているらしい・・・との情報を文献から見つけました。

そこで、県・野菜花卉試験場に連絡を取ると、在来種名、「高遠在来」と「長谷村在来」の 2 種類が保管されていることがわかりました。

同年（2014）7 月 27 日 在来種の種との対面

私達は、県・野菜・花卉試験場の畑作部研究員・丸山 秀幸氏を訪ねました。

そしてそこで初めて在来種の現物と対面しました。

\* 「高遠在来」は、その保存袋（封筒）に「高遠在来（浦）2004年7月14日」と記されており、わずか20gが保管されていました。

\* 「長谷村在来」は、1992年と記されたものが2kg保管されていました。

「高遠在来」の封筒には、（浦）と書かれていることから長谷・浦地区で取れた在来種と直感しました。「高遠在来」（浦）は、保存されている量が20gと少ないこと、そして小粒である事から、この保存されていた玄そばの復活と増殖が可能か丸山氏に尋ねると共に、復活のために力をお貸しいただきたい旨の依頼をしました。

丸山氏からは、量が少ないので心配だが、取組んでいただけるとの返事をもらうことができました。私達は、在来種復活への熱き思いを伝え、よろしくお願ひしたいと話しをさせていただきました。

**\*ここから「入野谷在来復活夢プロジェクト」は動き出しました。\***

## 同年（2014）年末？                      在来の種、奇跡の発芽

丸山氏から山根氏に連絡がありました。

「初年度は、播種後奇跡的に発芽したのが僅か<sup>わず</sup>6粒で、収穫できたのは42粒」との事。

来年は、春蒔き、夏蒔きで増やしてくれるそうです。「ご苦勞おかけしますが、よろしくお願ひします。奇跡の復活を願っています。」そんなやり取りをしました。

## 平成27年（2015）＜二年目の取組＞

10月8日

在来種の発見から一年が経ち、私達は、県・野菜・花卉試験場を再び訪ねました。

担当者が丸山氏から谷口氏に代わったとの事で畑作部主任研究員・谷口 岳志氏と面会しました。

『「高遠在来」は、春蒔きで300g+夏蒔きで200g、合計500gまで増えた。

来年には1kgまで増える予定。来年には、その一部を手渡す予定でいる。』・・・とのうれしい話と一緒に栽培上の注意点を教えていただきました。

## 同年（2015）12月8日                      圃場探し

来年分けていただく種を蒔く圃場を探す作業に取り掛かりました。

雪の残る中、在来種復活のため、封筒に書かれていた長谷「浦」地区で圃場が確保できないか現地調査をしました。

現地に行くと猪や鹿避けの柵に囲まれた畑や、柵の跡が残る遊休荒廃農地などがあり、手を加えれば圃場として使用可能な場所と確認できました。

その後、浦公民館で地元の方に昔のそばの話をお聞きしました。「浦には山葵があって、ソバを山葵で食べていたが、鹿が食って全滅しちゃった。」とお聞きしました。そして、私たちの在来種復活の夢を語り、協力をお願いしました。夕日を浴びた仙丈の姿がとても綺麗でした。

同年 (2015) 12月18日

池上直彦・長谷総合支所長より「地権者の了解が取れた」との嬉しい報告を受けました。

平成28年(2016) <三年目の取組> (栽培1年目)

3月17日

「信州そば発祥の地・伊那そば振興会」第1回定期総会において、伊那そば振興会の事業として在来種復活に取組むことの了解と了承をいただきました。

同年 (2016) 4月5日

信州大学農学部との連携

富山・農林部長、と信州大学農学部・井上直人教授、田多井俊夫特任教授に面会し、浦地区での在来種復活は、貴重な種であり、失敗が許されないなのでそのアドバイスと協力を要請しました。

同年、5月30日

長谷・浦の圃場で第1回の耕起作業の予定でしたが現地は、あいにくの雨で現地確認に変更。新緑の森にうっすらと霧のかかった景色は幻想的で現実離れ・・・これぞ霧下そばの適地・・・と思いましたが、映画のワンシーンを思わせるような景色は、あまりに素晴らしく、逆にこのプロジェクトが夢幻とならないか不安もよぎりました。

同年、(2016) 6月1日

耕起作業

第1回耕起作業を池上直彦さんのマメトラで行いました。土質は柔らかそうで、期待できそうな圃場です。測定の結果、圃場は10m×20mの約200㎡=2aと狭い土地ですが、「全てはここから始まる」との熱い思いが湧いてきました。

平成28年(2016) 6月9日 pm4:00 晴れ 在来の種、受取り

県・野菜花卉試験場、谷口氏から増殖していただいた貴重な、貴重な在来の種子300gを譲り受けました。いよいよスタートです。帰路、高遠方面には前途を祝福するようにきれいな虹が出ていました。

同年(2016) 7月7日(木) am9:30 晴れ 浦の住民と懇談

鹿柵設置作業と浦の住民との懇談会を行いました。(参加者20名)

- \* 浦は標高が1100mを超え、霜が里より早く来るので8月に播種をしたのでは遅い。
- \* 7月20日頃がよいのでは、とのアドバイスをいただき、信大・井上先生と協議。

同年(2016) 7月20日(水) pm2:00 晴れ 第1回播種作業

井上教授指揮の下、初めての在来種・播種作業を行いました。播種は、分けていただいた300gの内100gを使い、リスク分散の観点から今日と翌週27日に分けて蒔

くことにしました。

同年 (2016) 7月27日 (水) am9:00                      **第2回播種作業**

同年 (2016) 8月2日 (火)                                      **発芽確認**

連日の夕立、雷雨が心配でしたが、順調に発芽しており一安心しました。

同年 (2016) 8月16日 (火)                                      **開花宣言**

同年 (2016) 8月19日 (金)

前日、長谷地区には、大雨洪水警報と土砂災害警戒情報が発令されました。

心配で浦の圃場の様子を見に行きましたが、無事で一安心しました。

同年 (2016) 9月7日 (水) 19:00    **「入野谷そば振興会」設立総会**

\*今後、在来種については、「入野谷そば振興会」が中心となって進めることになる。

\*組織的には、「伊那そば振興会」の傘下の組織とする。

同年 (2016) 9月28日 (水)                      **刈り取り、脱穀作業 (1回目の収穫)**

井上先生・学生も参加し刈り取り作業を行いました。

そして、昔ながらの足踏み脱穀機でそばの実を収穫しました。

1年目の収穫量は、100gの種から約18kg

4.4mm以上のもの約9kg、4.2~4.4mm約2kg、4.2mm以下の小粒約7kg = 来年の種  
1年目の大収穫に一同一安心。ホッとしました。

同年 (2016) 12月6日 (火)                                      **試食会**

4・2mm以上の規格外の在来種を使い初収穫の試食会（壱刻）を行いました。

感動する味と香り！・・・美味しい！・・・凄い！

試食の為にソバ打ちをしてくれた「ますや」の守屋さんと「壱刻」の山根さん両名の感想

「・・・凄い。水回しをした時に立ち昇る香りが、普通のそばの10倍。

・・・なんじゃこりゃ〜。・・・入野谷在来凄い！」      ・・・・そんな感想をいただきましたし、

試食した井上先生からは「香りも味も他の在来に負けない。」

最良目無しに美味しいし、夢はさらに確信へと変わりました。

平成29年 (2017) <四年目の取組> (栽培2年目)

5月30日 (火)                      **浦 新たな圃場の開墾作業**

浦地区の第1圃場に隣接する新たな圃場確保のための開墾作業（平成の開拓団）、草刈り、有刺鉄線除去、去年の圃場耕起、ゴミ拾いを行いました。

第2圃場の広さは、約1000㎡あり、第1圃場200㎡と足して1200㎡=12aとなりました。

200㎡+1000㎡=1200㎡

7月19日 (水) 9:30~      浦      2回目の**播種作業**

在来種播種作業 1反2畝の圃場に 3.5mm以下の小粒なもの500gを播種

7月28日 (金)      信大井上先生他                      **捕植作業**

9月27日(水) 刈り取り作業(2回目の収穫)

9月28日(木) 育苗ハウス現地確認、脱穀作業

天気予報通りの雨となり、急遽非持の中山彰博氏所有の育苗ハウスをお借りし、作業場としました。前日から作業して下さった皆様に感謝!

ビニールハウスが少し蒸れていて心配だと井上先生に連絡すると、信大生を派遣して下さり脱穀作業をしてくださいました。・・ありがたいことであります。

3.8mm以下 4.7kg、3.8~4.0mm 4.2kg、4.0~4.2mm 7.0kg、4.2~4.4mm 8.3kg

4.4mm以上 12.2kg 合計 36.4kg (2回目の収穫)

平成30年(2018) <五年目の取組> (栽培3年目)

杉島に新たな第3圃場を確保(種取り場) (3回目の収穫)

浦の圃場(12a)は、原原種を確保する圃場とし、今後販売につなげるための「種取り場」として杉島地区に新たな圃場、第3圃場を確保しました。(2反2畝) 22a

6月27日 有害鳥獣対策柵設置

7月19日 浦圃場 播種作業

7月20日 杉島圃場播種作業

9月25日 浦 収穫 24.5kg

9月27日 杉島収穫 34.3kg

58.8kg (3回目の収穫)

令和元年(2019) <六年目の取組> (栽培4年目)

柏木に新たな圃場を確保(販売用) (4回目の収穫)

出荷に向け、販売用の新たな圃場を柏木地籍に確保しました。(4反5畝) 45a  
杉島の個人の方の協力で新たに種取り場も確保できました。(9畝) 0.9a

7月25日 有害鳥獣対策柵設置

7月16日 浦圃場 播種作業 (8月9日 浦圃場 再播種作業)

7月17日 杉島圃場播種作業

7月30日 柏木圃場播種作業

10月3日 柏木圃場収穫(機械)

10月5日 杉島圃場収穫(機械)

10月9日 浦圃場収穫(手刈り)

今年の収穫状況

浦(原原種) 12a (1反2畝) 約18kg

杉島(種取り場) 22a (2反2畝) 約88kg

柏木(販売用) 45a (4反5畝) 約397kg

79 a (約 8 反歩) 約 503 kg 反収 約 33kg (32.875)

始めて出荷販売、試験的に高遠そば組合に買取りをお願いし、玄そばの販売価格、数量の管理契約など課題が続出。種の厳重管理と契約書の重要性を再確認しました。

### 令和 2 年 (2020) < 七年目の取組 > (栽培 5 年目)

浦、杉島、柏木に加え新たに中尾、黒河内、泉原と本格販売に向けて圃場を拡張

浦	12a	5kg	原原種圃場
杉島	22a	225kg	原種圃場、伊沢芳宣
柏木	58a	355kg	入野谷そば振興会
中尾	111 a	673kg	アグリワッカ 鹿害でほぼ全滅の圃場あり、
泉原	110 a	1165kg	フラワーポケット (市ノ羽宏和)
	313a	2,418kg	

2021 は新型コロナウイルス、パンデミックで世界中が混乱。

7 月は長雨であったが、8 月は一転晴天が続き、しかも台風の上陸もなく豊作であった。

新たに開拓した中尾の圃場は有害鳥獣対策が不備で、特に鹿害で全滅の圃場あり。

### 令和 3 年 (2021) < 八年目の取組 > (栽培 6 年目)

浦	12a	〇〇 kg	原原種圃場
杉島	22a	〇〇 kg	原種圃場、伊沢芳宣
柏木	58a	〇〇 kg	入野谷そば振興会
中尾	111 a	〇〇 kg	アグリワッカ 鹿害でほぼ全滅の圃場あり、
泉原	110 a	〇〇 kg	フラワーポケット (市ノ羽宏和)
	313a	〇〇 kg	

### 令和 4 年 (2022) < 九年目の取組 > (栽培 7 年目)

浦	12a	〇〇 kg	原原種圃場
杉島	22a	〇〇 kg	原種圃場、伊沢芳宣
柏木	58a	〇〇 kg	入野谷そば振興会
中尾	111 a	〇〇 kg	アグリワッカ 鹿害でほぼ全滅の圃場あり、
泉原	110 a	〇〇 kg	フラワーポケット (市ノ羽宏和)
	313a	〇〇 kg	